

「竹島外一島之儀本邦関係 無之について」再考

島根県地籍編製係あて照会(明治9年
10月5日)

御管轄内隠岐国某方ニ当テ從來
竹島ト相唱候孤島有之哉ニ相聞固
ヨリ旧島取藩商船往復シ線
路モ有之赴右は口演ヲ以調査方及
御協議置候義モ有之加ルニ地籍編
製地方官心得書第五条ノ旨モ有之
候得共尚為念及御協議候条
右五条ニ照準而テ旧記古図等
御取調本省へ御伺相成度此段
及御照会候也

明治九年十月五日 地理寮十二等出仕
田尻賢信
地理大属
杉山栄蔵

島根県
地籍編製係御中

内務卿あて日本海内竹島外一島地籍
編纂方伺(明治9年10月16日)

日本海内竹島外一島地籍編纂方伺
御省地理寮官員地籍編纂莅検
之為本県巡回之砌日本海中ニ在ル
竹島調査之義ニ付別紙乙第二十
八号之通照会有之候処本島ハ
永禄中発見之由ニテ故鳥取藩之時
元和四年より元禄八年迄凡七拾
八年間同藩領内伯耆国米子町
之商大谷九右衛門村川市兵衛ナル者
旧幕府之許可ヲ経テ毎歳渡
海島中ノ動植物ヲ積歸リ内地ニ
売却致候者已ニ確証有之今ニ古書
旧状等持伝候ニ付別紙原由之大
略図面共相副不取肯致上申
候今回全島実検ノ上委曲ヲ具ヘ
記載可致之処固より本県管轄
ニ確定致候ニモ無之且北海百余里ヲ
懸隔シ線路モ不分明尋常帆舞
船等ノ能ク往返スヘキニ非ラサレハ右大谷
某村川某カ伝記ニ就キ追テ詳細
ヲ上申可致候而シテ其大方ヲ權案
スルニ管内隱岐国ノ乾位ニ当リ山陰一帯ノ
西部ニ貫附スヘキ哉ニ相見候ニ付テハ
本県国図ニ記載シ地籍ニ編入スル
等之儀ハ如何取計可然ル哉何
分之御指令相伺候也

長官代理

(島根県令 佐藤 信寛)

九年十月十六日

次官

(島根県参事 境 二郎)

内務卿宛

内務権大書記官西村捨三外務書記官
あて照会 別紙甲号(太政官指令、明治
10年3月29日)

甲号

日本海内竹島外一島地籍編纂方向(外一島ハ松島
ナリ)

竹島所轄之義ニ付島根県ヨリ別紙伺出取
調候処、該島ノ義ハ元禄五年朝鮮人入
島以来別紙書類ニ摘採スル如ク元禄九年
正月第一号旧政府評議ノ旨意ニヨリ二号
訳官へ達書三号該国来柬四号本邦回答
及ヒ口上書等ノ如ク則于元禄十二年ニ至リ
夫々往復相済ニ本邦關係無之相聞へ候得
共版図ノ取捨ハ重大ノ事件ニ付別紙書
類相添 為念此段相伺候也

明治十年三月十七日 内務少輔
右大臣殿 (付箋書類略ス)

指令

伺之趣竹島外一島ノ義本邦關係無之
義ト可相心得事

明治十年三月廿九日

書面竹島外一島之儀は本邦

關係無之儀ト可相心得事

内務卿大久保利通代理

明治十年四月九日 内務少輔前島密

内務権大書記官西村捨三外務書記官
あて照会 別紙乙号(日本海内松島開墾
之儀ニ付伺、明治14年11月12日)

日本海内松島開墾之儀ニ付伺
当管内石見国那賀郡浅井邨士族大
屋兼助外一名ヨリ松島開墾願書差出シ
其旨趣タル該島ノ義ハ同郡浜田ヨリ海上
距離凡八十三里西戌ノ方位ニ当リ無人ノ
孤島ニ有之候処、東京府下大倉喜八郎
設立ノ大倉組社員片山常雄ナルモノ木材
伐採ノ為メ海軍省第一廻漕丸船ニテ
本年八月該地渡航ノ際、右兼助浜田ヨリ
乗込同航実地見分候処、其景況東西凡
四五里南北三里余周廻十五六里、島
山ニシテ海岸ヨリ頂ニ至ル凡一里半雜樹
森在古木稠茂シ其間幾多ノ溪流且
ツハ平坦ノ地アリ地味膏腴水利モ亦便僅
カニ一隅ヲ拓クモ数十町歩ノ耕地ヲ得ヘク
其他採藻漁業ノ益全島ノ福利測ル可ラ
ズ移住開墾適當ノ地ニ付同志ヲ浜田地
方ニ募リ資金ヲ合セ自費ヲ以テ草萊
ヲ開キ大ニ遺利ヲ起サントノ義ニ有之候処
該島ノ義ハ過ル明治九年地籍取調ノ際
本県地籍編入ノ義内務省ヘ相伺候処
同十年四月九日付書面竹島外一島ノ義ハ
本邦關係無之義ト可相心得旨御指令相成
然ルニ前述当度大倉組渡航伐木候場
合ニ就キ推考候得ハ、十年四月御指令
後或ハ御詮議相變リ本邦版図内ト被定候
儀ニ可有之歟、該島果シテ本邦地盤ニ候
得ハ兼助等願意事業經費ノ目論見
資金支出ノ方法及同志者規約等詳
悉取調更ニ相伺候様致シ度別紙相添此
段相伺候也

明治十四年十一月十二日

島根県令境二郎

内務卿山田顯義殿
農商務卿西郷從道殿

内務権大書記官西村捨三発外務書記官
あて照会(明治14年11月29日)

島地第一一一四号

日本海ニ在ル竹島松島之義ハ別紙甲号
之通去明治十年中本邦關係無之事
ニ伺定相成爾来然力相心得居候処今
般島根県ヨリ別紙乙号之通申出候次
第二ヨレハ大倉組社員ノ者航到伐木候
趣ニ相聞候就テハ該島之義ニ付近頃朝
鮮国ト何歟談判約束等ニ相涉リタル義ニテモ
有之候哉一応致承知度、此段及御照
会候也

明治十四年十一月廿九日 内務権大書記官西村捨三
外務書記官 御中

朝鮮国蔚陵島即竹島松島之儀ニ付御聞合之趣閱悉
候右は先般該島江我人民ノ渡航漁採スル者有之趣
ニテ朝鮮政府より外務卿江照会有之候付查究候処
果シテ右様之事實有之趣ニ付既ニ撤歸為致爾後
右様之儀無之様申禁ニ及置候旨該政府江照覆
置相成候右回答申達候也

十四年十二月一日

■『県治要領』(明治14~15年)〔島根県所蔵〕

明治15年1月の条(明治15年1月31日)

三十一日

去年十一月十二日付ヲ以日本海内松島開墾ノ義ヲ内務農商務ノ両卿ニ稟議シ至是内務卿ヨリ其指令

ヲ得ル如左

書面松島ノ義ハ最前指令ノ通本邦関係無之義ト可相心得依テ開墾願ノ義ハ許可スヘキ筋ニ無之候事但本件ハ両名宛ニ不及候事

